迷惑なんかじゃないよ

気が付くと12月。コロナで動けなかった去年に比べると今年は地域活動が復活の兆しを見せ、笑顔が戻ってきた年だった。学生の地域活動もいろいろなことができるようになった。そんな今年の一番の思い出は、学生が企画した「子ども自然体験宿泊キャンプ」での出来事だ。

緊張した面持ちで始まったが、学生が工夫を凝らしたプログラムに、小学生も楽しみながら互いの心を近づけていく。学生と小学生が打ち解けたことを安心していた初日の夜、学生と見回りをしていると、寝静まる子どもたちの中で、１人だけ起きている子を見つけた。

その表情は先ほどの笑顔とは裏腹に曇っている。学生が話を聞くと、どうやらトイレに行きたいが怖くて行けず、困っていたらしい。それを聞いた学生が「早く言ってくれればよかったのに」と言うと「迷惑かけちゃいけないと思って」と小学生。すると学生は「迷惑なんかじゃないよ、頼ってくれてうれしいよ。一緒にトイレに行こう」と２人はトイレへと向かった。

戻ってきた２人は深まった絆に少々気持ちが高ぶって寝付けそうになかったので、私を含めた３人で少し話すことにした。迷惑はかけちゃいけないというけれど、迷惑と思っていることは実はそんなに迷惑じゃないことが多い。大切なのは困ったときに「助けて」と言える空気をつくること、その声に気が付ける耳を持つこと。自己完結や自己責任という言葉にとらわれるより、困難なことを皆で支え合う、そんな生き方の方がうんとすてきだよと話した。小難しい話が眠気を誘ったのか、２人は目をこすりながら部屋に戻った。

介護や子育ての問題も同様で、個人での解決は難しい。迷惑は悪ではない。地域で支え合うことで乗り越えていく。それがわれわれの持つ底力だと、改めて彼らに教わった気がした。

翌日、２人の姿は昨日よりもたくましく輝いていた。

たかみ・だいすけ　日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。42歳。

c大分合同新聞社　無断複製転載を禁じます。